

野辺地町立小学校統廃合基本計画（案）に対する意見の内容及び町教育委員会の見解について

No.	意見の内容	町教育委員会の見解
1	・馬門小学校保護者で話し合った結果、2年後の統合先は若葉小学校にしてほしい。 ＜理由＞ これまで、若葉小学校と交流を進めてきたため。 ・先行統合した際、児童は同じクラスにしてほしい。 ＜理由＞ 児童の不安を最小限にするため ・スクールバスは必ず運行するようにしてほしい。 ＜理由＞ 通学が遠距離になるため	・町教育委員会では基本計画（案）において、令和5年4月に馬門小学校を野辺地小学校に先行統合するとしておりますが、その統合先については、野辺地小学校と若葉小学校それぞれのメリットとデメリットを比較しました。若葉小学校と統合した場合は統合を2回経験することになること、保護者アンケートでも意見を出されていましたが、道路が狭い、歩道が無いなど、通学上の安全面に支障があること等が、統合先を野辺地小学校とした理由でありました。 しかし、4月の住民説明会、5月に改めて行ったアンケート調査、保護者との懇談の結果、修学旅行や宿泊学習など、今まで子供たちが交流のある若葉小学校を統合先とすることに変更いたしました。 ・学校統合により学校規模が拡大することに伴い、児童の学習環境や生活環境、教職員との関係等が大きく変化するため、新たな生活に戸惑いが生じることが考えられます。 つきましては、統合前から在籍している教員を統合後の学校にも一定数配置することや、統合後の学級編成や担任の決定についても十分な配慮を行うよう努めます。 ・通学距離が延びることで、児童が体力的・精神的に疲弊し、学習意欲や様々な活動に悪影響を与える可能性があります。こうした遠距離通学については、スクールバスの運行等について検討いたします。

No.	意見の内容	町教育委員会の見解
2	新たに建設する統合小学校はぜひとも木造校舎とすべきです。なぜなら木が子供達にとって学び舎の最適素材と云えるからです。 実際、木造校舎にされた宮城県東松島市宮野森小学校 相澤 日出夫 校長の言葉が木造校舎の良い所を語っておられますので、ここにそのまま記します。 『木造の校舎は、視覚、嗅覚、触覚など生徒達の五感を刺激し続け豊かな心を育てます。木の温もりを感じる場所は人の温もりを感じることが出来ます。木の香りに包まれ無意識のうちに無垢材に触れながら生徒達は、お互い優しく思いやる関係を育てていくのです。』 木の学校は本当に魅力的です。木の香り、肌触り、音の響き、木に包まれた空間は豊かさや優しさ、温もりを感じます。 誇りに思う、自慢できる素晴らしい木の学び舎をぜひ野辺地の子供達に！！	木材を使用した校舎については、いただきましたご意見のとおり、学校環境の質を高めるのに、心理、情緒、健康等のさまざまな面で優れた特性を有しているものと認識しております。 町教育委員会としては、新校舎の建設について改めて供用開始時期を設定し、統合小学校新築事業検討委員会（仮称）を組織した中で、校舎の構造や建設予定地内での校舎の配置場所、その他校舎のコンセプトなどの基本構想等について検討を進めていく予定としております。 学校敷地内及び校舎内における空間のゆとり確保、学校敷地内における遊具をはじめとする児童の遊び場・スペースについても、併せて検討していきますので、いただいたご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。